

令和5年度第2回滝沢市上下水道事業経営審議会議事録

I 日 時 令和5年9月5日（火）13時25分～15時55分

II 場 所 滝沢市役所分庁舎 第6会議室

III 出席者 上下水道経営審議会委員出席9名（欠席委員なし。）

【滝沢市上下水道事業経営審議会委員】

山田一裕委員、田村康樹委員、山口孝委員、
齋藤誠司委員、田村武委員、関晴恵委員、
熊谷稔委員、新田育夫委員、赤塚貴史委員

【滝沢市】

上下水道部 部長 及川竜悦
水道総務課 総括主査 高橋竜也
下水道課 課長 村上斉、主幹 五十嵐 淳、副主幹 伊藤圭晃
総括主査 黒澤滋、主任 高山隼輔

IV 次 第

1 開会

2 挨拶

上下水道部長挨拶、委員及び事務局の紹介

3 議事

(1) 議事録署名人の指名

会長より、議事録署名人に田村康樹委員、熊谷稔委員を指名した。

(2) 審議事項

以下ア～イの審議事項について事務局から説明し、これに対し質疑応答があった。

ア 滝沢市下水道事業経営戦略見直し（案）について（下水道資料1）

イ 汚水処理施設概成アクションプラン見直し（案）について（下水道資料2）

【赤塚委員】4ページの令和8年とは、令和8年度のことでしょうか。

【下水道課長】令和8年度であります。

【齋藤委員】7ページから8ページにかけて、用語の考え方であるが、法定耐用年数と耐用年数、老朽化というものがあるが、同じような意味にとれるが、どのように使い分けているのか。

【下水道課長】ご指摘のとおりであります。法定耐用年数と耐用年数は違うものでございますし、老朽化に関しましても違うものでありますので、再度、使い方

に関して精査したいと考えております。

【山田委員】5ページの組織体制の中で、7名から6名に変わっているが、一般会計職員1名を含まないとは、6名に入っていないということでしょうか。

【下水道課長】そのとおりである。

【山田委員】それでは、アスタリスクなどをつけてはいかがか。5ページ別添資料1経営分析表とは経営比較分析表のことでしょうか。また、6ページ、下水環境の整備に努めていますとあるが、下水道の整備に努めているのか、それとも、汚水対策の整備に努めているのか、どのようなものとなるのか。

【下水道課長】下水道の管の整備を進めているというものをこの中ではいっていませんが、実際には汚水対策を実施しているというもの。

【山田委員】文章としては、本市では、下水道整備のほか、浄化槽の整備についても普及促進を図りとのことを受け取っての下水環境の整備となると、いわゆる下水道、浄化槽の整備についてというものとなる。下水にこだわらず下水という言葉を使うと重複するので確認をしておいてください。7ページ、下水道建設開始時の急激な都市化とともに今後は多くのとあるが、都市化に伴いが文章として適当ではないか。

【齋藤委員】21ページ、今の説明だと、人口減少と有収水量が減少するので、お金が無くなっていくとしているが、有収水量の減少は、そんなに減っていないと感じる。中身を教えてください。

【下水道課長】人口減少と有収水量が関係して、収入が落ちていくという試算をしているところ。20㎡も使わなくなる人が増えていくということから、料金自体の収入が落ちてくるということで今回の試算をしている。今まで、平均的に20㎡の使用としていたものが、そのくらい使用しない者が増えてくるであろうということから、収入が減少してくるのではないかなと見ているところ。

【齋藤委員】有収水量でまとめていると思うが、その中には個人とか、一般的な企業、大口の利用者の方もおりますし、認定している事業者の方もいると思いますが、もし、今のような形で話を進めていくとすれば、減少の要因をもう少し細かく算出したほうが良いと思うがいかがか。

【下水道課長】ご意見を踏まえて、もう少し細かく、色々な料金体系の中で説明していかなければと思いますので、今後、利用者に対して応える資料をつけていけるようにしていきたい。

【齋藤委員】総費用はわからないと思うので、一般家庭であれば、過去にどれくらい減少幅があったとかというものを具体的に入力しないと、将来の予測が難しいのではないかと。表は令和3年からのものであるが、令和2年あたりは有収水量が増えている。それを踏まえて、全体の流れの中でどのような説明をしていくか。今後、このような形が見込まれるので、こうなりますというか、出典というか、もう少し詳しい内容が必要かと思う。

【下水道課長】有収水量を個別にというものもありますので、経営戦略の中で、有収水量の変化を表していきたい。

- 【齋藤委員】処理水量と有収水量の間に100万 m^3 近い乖離があるが、解決しなくてもよいものか。
- 【下水道課長】不明水といわれるものになるが、解決しなければならないと考えている。今年度からスタートとなるが、各地区の不明水の現状を分析するとして、来年度以降徐々にとなるが、カメラ調査など管路の調査をしながら不明水について検証して、必要があれば管路の改修などをして、無駄な処理水を流し続けることとなるので有収率を上げることとして調査をしていく考えである。
- 【齋藤委員】そういったものを盛り込んでいただきたい。不明水の割合だけが増えていくという状況なので、その経費が増えていくことについて、話を進めていくのがよろしいと考える。
- 【下水道課長】今後の取り組みとして計画していきたい。
- 【山田委員】大きくは接続率の現状ですが、経営を直接圧迫するいくつかの項目で、現状分析として、どのように解決をしていくのか改善されるのか、そのためには何が問題なのか、そういった点で整理していただかないと、総枠での話としてしまうと、経営に対する努力が分かりづらくなる。もう少し内容について分かりやすくしていただきたい。
- 【下水道課長】接続率については、今後も改善していかなくてはならない点でありますので、今の傾向も踏まえながら資料を提供したい。頂いたご意見を踏まえ、最終的な料金について、今言った細かい部分での計算をして、収支均衡を図った上での改定率などを提示していきたい。
- 【齋藤委員】有収水量とその減少が見られないという、変わる可能性があるというものか。それとも、その中の内訳を説明するということか。
- 【下水道課長】その中の内訳を説明します。細かく分析することによって、積み上げ方式にするかというものになるが、現状では、有収水量はこのような形で抑えておりますので、この内訳が正しいかということについて、再度、精査をする形で、見直しを行っていきたい。
- 【熊谷委員】人口減少について、世帯数も減少するという考えでよろしいか。
- 【下水道課長】世帯数は、1年間全体でみると減ってはいない。減ってはいないということを見ると、一家庭当たりの人口が減っていると考えられる。接続した家庭の人口が減っていると考えられる。
- 【熊谷委員】世帯数が変わらないということは、基本料金として入ってくるものは変わらないということか。
- 【下水道課長】そのとおりである。
- 【熊谷委員】有収水量というのは、同じものなのか。基本料金で入ってくるものは変わらないのであるから、さらにオーバーしてとなるものか。有収水量は減ってくるということか。
- 【下水道課長】基本料金については、個人で加算されるものであるが、多くの家庭ではその基本料金を超えてくる。人口における世帯が減ってくるものもあるが、基本料金部分しか入ってこなくなると、使用料収入が減ってくるというもので

ある。人口が減ってくるので、有収水量が減ってくるというものである。有収水量は、令和3年では3,478千 m^3 が令和12年では3,446千 m^3 と減ってくる見込みである。

- 【下水道課総括主査】 齋藤委員から、令和3年以前の有収水量についてのご質問がありました。お手元に資料を用意しておりませんので、読み上げる形となりますが、令和3年度では3,478,825 m^3 と資料のとおりであります。令和2年度は3,446,575 m^3 、令和元年度は3,284,924 m^3 、平成30年度は3,222,516 m^3 という数字になっておりましたので、コロナの関係で家庭にいらっしゃる時間が長くなったとの見方から、令和元年度の3,284,924 m^3 から令和2年度の3,446,575 m^3 と少し大きくなったとは思いますが、ただ、今後の人口から見ますと令和7年度をピークに減っていくのではないかとという予測をもとに、今回、有収水量に反映させていただいて、使用料に反映させていただいているという形になります。また、今、委員からお話がありまして、改めて、細かい内訳が出せればと思いますので、後程、説明できればと思います。
- 【齋藤委員】 使用量の出し方というのは、単純に一人当たりの使用量かける人口だと思います。であるので、一人当たりの使用量が出ないと、なかなかわからないかと思えます。先ほど言われた数字が、コロナ禍の影響があるかもしれませんが、跳ね上がった原因というものも、今度は知りたくなる。
- 【下水道課総括主査】 内訳については、実績のところについては、使用した区分、階層というのがあります。実績となっているものですが、その他にコロナの影響であればという見方をしておりますが、後程、資料をお出しする際にそれを踏まえてとは思いますが、また、その際に、跳ね上がったものが何かと示せればとは考えますので、資料のほうは検討させていただきたいと思えます。
- 【齋藤委員】 使用者階層での一人当たりの使用量は、あまり変わりがないと思えます。
- 【下水道課長】 調定に係る使用水量を実質の区域内に係る人口で割ってきたものではあります。
- 【山田委員】 確認ではありますが、今、審議している経営戦略とアクションプラン見直し（案）について、経営戦略の見直しにおいて、5%、10%、仮の試算をいただいておりますが、これら載せて付属の資料として見直しのものとなるのか。そのあとに、どうすればよいかという議論の時に、齋藤委員のおっしゃったように、内訳としての試算内容が示されていないと分かりにくいのかということかと思えますし、経営戦略の中で、そこまで議論をすべきものか、あるいは、料金改定の議論があつて、審議があつて、内容として、このくらい料金改定をという審議をしようとしているのか、その点を整理させていただきたい。
- 【下水道課長】 あくまでも経営戦略とアクションプランの見直しをさせていただいて、経営戦略が成り立つ形を最終的には、料金改定なりのご審議をお願いしたいと現状では考えております。経営戦略の様式としてお金がついて回りますので、このところをある程度、赤字ではない状態で経営戦略の見直しをしたい

というもの。

- 【山田委員】料金を上げるという議論の前に、例えば、不明水対策がどうなのかという議論や、あるいは浄化槽の整備はどのぐらいのスピードで行っていくのか、経費がかかる部分と無駄となっている部分とを比較してとなっていなければおかしいと思われる。先ほどの議論の中でも、その点が不足していて、現状での案を出しているが、芯が見えなくなると感じる。
- 【齋藤委員】ストーリーがないと、なかなか次の段階に行かない。最終的には市議会への説明となるが、今のような中身がないと理解が得られない。
- 【山田委員】問題意識としてはわかるが、具体的な対策としてどのぐらいの経費がかかるなど、もう少し分かりやすく伝わるような資料としていただきたい。経営上、足を引っ張っている内容が分かるようにしていただきたい。経営上、必要なものを入れるようにしていただきたい。
- 【下水道課長】もう少し具体的な資料を入れていきたい。
- 【上下水道部長】前回提示していただいた資料で、今後、かかってくる改築・更新費用について、これが大きな費用の要因であったのですが、今時点で40年、まだ更新時期とはなっていない。当時のシナリオとしては、改築対応としては、50年で更新するというよりは、若干前倒しをして平準化したほうが今後安定した経費となるよう説明したところですが、平準化しても、年3億2千万円を実際下水道事業で実施する際に、なかなか難しいのではないかとしたなかで、それであれば、改築・更新については、新しい工法が出てきているので、もちろん事前の調査などもありますので、経営戦略の見直しとして令和8年度までとなっているが、その間には、どのように実施していくかという取り扱いを検討する期間として令和8年度までとしたいと考えています。
- 【山田委員】平準化しなくてはいけないものの内容が入っている今回の経営戦略の資料ではないということでしょうか。
- 【上下水道部長】そのとおりである。令和8年度までに、どのようにしていくかということで実施内容を検討し、改築・更新への準備期間ということで、令和8年度の経営戦略の改定の際に反映していきたいというものであり、改築・更新に対しての説明が不足していたものである。
- 【赤塚委員】20ページについてですが、滝沢市の住宅数、人口と下水道、水量はリンクしているのか。大口とは数%なのか。
- 【下水道課長】水道使用量と下水道使用量は、100%ではないがリンクしています。大口とはしているが、全体から見れば大きなものとなっていない。
- 【赤塚委員】人口減少となってきて、経営は厳しくなるということであるが、下水道使用料は上げる一方なのか。儲ける考えはないのか。居住地でまとまって人口が減っていくということもあるのか。
- 【下水道課長】料金のことだけを考えると、人口が減ってくると考えると上げざるを得ないということが考えられる。人口が減っていけばいくほど、下水道で処理する区域も減っていく可能性がある。人口密度が下がってしまうと、下

水道ではなく違う方法でということも他の市町村で考えられている。今の市街地でどれくらい人が残っていくかという将来の具体的な課題とはなる。20・30年後の長いスパンではないと、現状では難しい問題である。

- 【赤塚委員】人口が減って、住むところがないとか、人がいないとか。それと不明水との関係は何か。
- 【下水道課長】不明水は、何種類かに分けられるが、地下水位が高いことにより、常に一定程度入ってくる不明水というものも一つあるかと思う。もう一つは、雨が降った時に急激に地下水位が上がった、または、マンホールの蓋の壊れた部分などから下水管に入ってくるというものも、現象としては確認しているものでありますので、そういった部分に関しては、不明水を抑えていきながら有収率を上げないと、人口減少に対する有収率も落ちていき、不明水だけが増えていき、誰も接続していないのに下水に流れるというものでは意味がないので、まずは、不明水対策として足掛かりを進めているところです。
- 【赤塚委員】地区によっては、不明水の原因はまちまちなのか。
- 【下水道課長】やはり、まちまちである。完全に、その状況によっても変わるものである。一つひとつの場所をそれぞれ点検してみないと、何にあたる不明水であるかを検討する上で、調査の仕方などを調べていかなければと考えている。
- 【山田委員】10ページの投資・財政計画の計画値と現状値を併せるかどうかということについて、計画はその時点の計画なので、結果に寄せていかなくともよいと考えるが、何かご意見があればお願いします。
- 【赤塚委員】計画は途中で見直すものか。策定時点のものか。
- 【山田委員】計画値は策定時の考えのものではあると考える。
- 【下水道課長】策定時の平成27年度末時点の値、普及率であれば88.2というのは現状値の値、ただし、計画値というものは令和8年度末時点の87.9であり、現状値を下回っているものです。
- 【山田委員】計画が作られた時の策定値に目標として掲げた計画値が、令和8年度末の87.9%であり、現実には、令和4年度計画値の見込みが離れているわけではないが、令和8年度末時点での計画値を実態に合わせて、現状値に合わせてよいかという事務局からの話である。
- 【下水道課長】現状値に合わせたほうがよろしいか、というものです。
- 【熊谷委員】努力した跡が見られるものがよろしいのではないか。
- 【山田委員】何が良くて何が悪かったというものは、後からくるものかと思しますので、計画は尊重したほうがよろしいのかとは思っています。
- 【熊谷委員】そういうことですね。事業費は計画していたのに、これくらいしか進めることができなかったというものかと思う。
- 【山田委員】それでは、資料のとおりということにしたいと思えます。あとは事務局に対してのものですが、13ページの広域化・共同化・最適化に関する事項の中で、「その他の広域化・共同化」に関して、流域下水道としていることとはわかるのですが、その他広域化・共同化・最適化というのは、何か滝沢市とし

てのほかの自治体に向けた働きかけとか、費用とか、課題とか、そういったものはないという認識でよいか。

【下水道課長】投資関係の話となりますが、全体的には県を中心として色々なブロックに分けて行っておりますが、盛岡広域圏という形での広域化・共同化については、今年度から具体的に始まっております。その中でも人材育成等に関しては早めにとということでやっておりますので、その部分については、さらに今後、統一して進めていかなければならないと考えているところです。9ページの「広域的な汚水処理計画の策定と実施」について、「岩手県において「岩手県汚水処理事業広域化・共同化計画」が策定され、「汚水処理施設の統廃合」や「システム整備等の維持管理の共同化」、人材育成などの「ソフト面の共同化」が示され」とありますということで、今、やっているところです。

【山田委員】投資・財政に係るものではないが、広域化などに関しては行っていくということでよいか。

【下水道課長】その通りです。

【山田委員】それでは、下水道資料1-1から1-4まで、何かご指摘、ご意見等ありましたら、お願いします。

【山田委員】1-1については料金改定がありませんので、現状のままということですね。5%、10%、あと資料1-4については、経営戦略につけている様式ということになります。もし、この料金改定となる目安となる試算を経営戦略の本文で説明するのであれば、どこに記載されるのか。

【下水道課長】最終的には18ページ、「今後の財源についての考え方・検討状況」という部分の「使用量の見直しに関する事項」の部分に、全体的にかかってくることとなります。

【山田委員】先ほど資料を説明していただいた時に、料金改定がないのであれば何がかわらないとの説明がありましたし、5%まで改定をした場合にはどこまでの内容が変わるかとの説明があり、さらに10%ではという話がありました。どの程度の見込みがあれば、どこまでの課題が今、クリアできるのかというものを具体的に整理していただきたい。

【熊谷委員】例えば、ごみ焼却炉などは様々な問題があるわけで、計画がその通りに行かないとか。そういう心配はどうなのか。

【下水道課長】そういう心配がないわけではないが、処理施設に関しては、流域という部分で行っておりますが、今、建設関係の負担金を払っている状況であります。今後、大きな改修や修繕などありましたら、負担金の中でやっていただくというもので、広域全体で支払いをして、共同化していくという形となっております。

【下水道課総括主査】数字のところでは話いたしますが、下水道資料1-1のところ、公共下水道事業のところ、営業費用の中に「流域下水道維持管理負担金」というものがございます。令和5年度以降、徐々に上がっているものとなります。この部分についての補足となりますが、令和5年度については予算ベース

で計上しておりまして、今後、変わる予定でございます。というのも、令和4年度に原油高騰がありまして、その部分についての負担金を今後、追加で求められる可能性がありますので、令和5年度中に補正を組まなくては行けないものかと考えております。滝沢市においては、按分されてきますけれども、約900万から1,200万程、要求されているところです。令和5年度については、あくまでも当初予算ベースであり、令和6年度以降については、県から、今時点で示されている額ですので、県の試算が1年前のものとなりますので、今後、流域下水道の維持管理費、市町でそれぞれ負担割合がありますが、滝沢市では、例年2億程度のものが、3億に近づいているということです。これについては、流域の管理の部分で、単年度、単年度、上げ下げされると市の中でも予算を取りづらい、長期見通しが立たないということで、従来、流域の維持管理負担金についても平準化をしてほしいという市町からの要望で、この額になっているわけですが、流域の施設についても、熊谷委員からご質問ありましたとおり、傷んでいきますので、それについては改修していく、あるいはメンテナンスしていくということとなりますし、同じく資料1-1「資本的支出」にある「流域下水道建設費」についても4条予算として、改修工事を行う際について負担をする部分で、先ほど説明したものは維持管理費となり、4市町、盛岡、滝沢、雫石、矢巾で負担しているものですが、これも今後伸びていくという指標が出ております。ただ、流域下水道については、現在、黒字となっておりますので、市町の要望からは、流域の黒字部分を使って、なるべく市町の負担を増やさないでいただきたいという形で協議させていただいても、年々、上がっていくという、2年前の数字も含まれておりますが、今後、原油高騰から資材高騰などとなりましたら、県のほうでもその都度、見直しがかかってくるものと思いますので、経営戦略の話に戻しますが、今までの3・4年での見直しというのが、内部では毎年見直しをかけていかななくてはならないのかと考えているところです。

【齋藤委員】11ページで、具体的に「国土交通省の国防ステーション」とありますが、名称は簡単でよいのではないかと。

【下水道課長】修正させていただきます。

【山田委員】それでは、(1)審議事項ア「滝沢市下水道事業経営戦略見直し(案)について」は以上とさせていただきますが、ご異議ございませんでしょうか。

【出席委員】(異議なし。)

(暫時、休憩。)

【山田委員】ただ今、アクションプラン見直し(案)について説明がありましたが、下水道資料2というのは、このあとどのように見直すというものか。このとおりが見直した内容というものか。

【下水道課長】見直した内容のものである。

【山田委員】見直しの要点のようなものはあるか。

【下水道課長】次回、お示ししたい。

- 【赤塚委員】全体の事業などが膨らんでくると思われるがいかがか。
- 【下水道課長】具体的な事業計画のようなものを一枚、つけるように検討していきたい。
- 【山田委員】2ページ目の整備区域図は1枚目と同じかと思うが、長期計画の中で、区域図が変わってくる可能性はあるのか。いつの時点までに行うなど、何か違うものがあるのか。
- 【下水道課長】いつの時点のものというのは入れていきたい。ほとんど変わっていないものとなるが、あまり広く事業を進めていくというものではないので、変わらないというものである。
- 【山田委員】事業を拡大していくというものではないと思われるので、むしろ、結果のような形とみられるので、少なくとも今時点の長期的な整備の計画としての前提としているのでしょうから、誤解のないような形としていただきたい。
- 【下水道課総括主査】図面の補足となりますが、1枚目2枚目共通してとなりますが、1枚目の右上の集団のところは滝沢駅となりまして、その周りの集団のところは今回、整備が見込めないということで、白抜きとなっております。今回、令和4年度に事業計画区域から落としてということですが、あくまでも外枠の黒線については全体計画のフレーム、枠となりますので、そこについては残した状態で令和4年度の事業計画変更を行った際の見直した図面となっております。
- 【山田委員】今説明があったものについて、アクションプランの資料の中に示しておくというものが必要なと思いますので検討をお願いします。
- 【赤塚委員】個人設置浄化槽について、個人設置はいくらくらいで何%となっているのか。
- 【下水道課長】設置については1基120万円程度かと思いますが、汲み取りから浄化槽へなど種類がありますが、大体、40万から50万という補助金を出しているものとなっております。
- 【山田委員】事務局では、この審議が終わった後に委員の皆様から何か質問とか意見とかなどあれば、受け付けていただけるのでしょうか。
- 【下水道課総括主査】それはお願いしたいところでございますが、今回までにご質問頂いたもの、ご意見いただいたものについては、整理させていただきたいと思いますが、そういった形では、随時、受け付けさせていただければと思います。
- 【山田委員】そういった形で次回までに資料などを修正していただければと思います。それでは、(1)審議事項イ「汚水処理施設概成アクションプラン見直し(案)について」は以上といたしますが、ご異議ございませんでしょうか。
- 【出席委員】(異議なし。)
- 【山田委員】これをもって、本日の予定された議事を終了させていただきます。このほかに委員の皆さんから、次回の審議に向けての要望や意見がございましたら、お願いいたします。特にないようでしたら、以上で本日の議事の一切を終

いたします。何か、今回の審議を受けてありましたらご発言をお願いいたします。

【赤塚委員】次回の開催については、いつぐらいとなるのか。

【山田委員】それは、あとで事務局よりお願いしたいと思います。ほかに何かありますか。

【齋藤委員】今年の全体的な流れを確認したい。

【下水道課長】後程、会長の進行が終わりましたらご説明したいと思います。

【山田委員】それでは以上を持ちまして終了したいと思います。委員の皆様、ご苦労様でした。

4 その他
特になし。

5 閉会

この議事録は書記の記載したものであるがその内容が正確であることを証するためにここに署名する。

令和 年 月 日

滝沢市上下水道事業経営審議会

会 長

署名委員

署名委員